

第四回春日山原始林授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 北村 恭康

日 時 令和元年 8 月 23 日 (金) 17 時 00 分 ~ 19 時 15 分

場 所 奈良貴養育大学 次世代教員養成センター1 号館教室兼会議室

参加者 杉山拓次 (春日山原始林を未来につなぐ会)、吉田寛 (附属中学校)、
上田薫 (学生)、北村恭康 (奈良教育大学)

内容

○ 奈良教育大学附属中学校が冬の奈良めぐりの中の、「春日山原始林」コースを 8 月 7 日に 2 年代表が下見を行い「感想や問い、疑問」を出し合った。それらを参考に本番に向けて、より内容を充実させていく。

ねらい

- ・春日山原始林を形成してきた自然と、春日山原始林を内包した景観を形成してきた人間の歴史について知る。
- ・春日山原始林から自然の仕組み、価値を学ぶ。
- ・上記 2 点から、人間が自然と共に生きるとはどういうことかを考え、実行する力を育成する。



○生徒の感想から (抜粋)

・自然の面白さ。(目でも耳でも体でも感じられるところ) ・五感を使って様々な自然を感じることができる。 ・無患子を水の中に行けて振ると、泡がたったことが印象的であった。 ・岩に「月・日」と書いた意味はなぜか。 ・なぜ、あそこに仏様(仏頭石)がいたのか。 ・鹿と植物の生存の両立はどのような取組をしているのか。 等

- ・今回は、なるべく生徒たちが自ら「なぜ、どうして」と疑問を持てるようにして、専門家の解説にならないようにした。
- ・本番では、
場所によらず (春日山全体) → 伝えたいこと
場所によって (遺跡、環境) → 伝えたいこと
しっかり見極めて伝えていく。
- ・歴史と自然がどのようにつながっているのか。
現地に行き、調べることが大切である。
- ・春日山原始林と神・仏のつながりに気付かない。
- ・生徒には、まだ資料も配っていないので、本当に素直な感想が出てきたと思う。
- ・春日山の歴史 (興福寺、春日大社との関係) を押さえる必要があるのではないかと。
- ・資料では、

奈良県の「春日山原始林保全計画検討委員会」の資料などが良いのでは。

- 前にも言っていたが、子どもたちは、自然と人間を分離してみているので、自然の中には人間も入っているという見方を持ってもらいたい。
- まとめ方としては、見てきたもの、感じたことを色で表したり、曼荼羅的なものにできたりしたらよい。また、この学びが他に学習に応用できるようになればよい。
- つながりを意識できるものを事前学習しておけば。